

暴飲暴食がきっかけのまひ 鍼治療で自然治癒力を回復

症状

顔の右半分が突然動かなくなり、まぶたが閉じない、口の端に締まりがなくなり、よだれがこぼれる、ほおを膨らませたり、笑ったりすることがうまくできない——などの症状に気付いた。食べた物の味も分からなくなった。

診断

この男性は、訴えていた症状から、他院で顔面神経まひと診断されていた。顔の筋肉を制御する神経が、



顔面神経まひの治療では、顔、手のひら、足の先のツボを刺激する。写真は、手の親指と人差し指の付け根にある合谷(ごうこく)に鍼を刺す様子。

今回のケース

2週間くらい前から、顔の右半分が動かなくなりました。寝るときも、右まぶたがうまく閉じません。

病名	顔面神経まひ		
年齢	30代前半	性別	男性



金子優先生
(Yu Kaneko, LAc)

ニューヨーク州およびカリフォルニア州認定鍼灸師。全米鍼・東洋医学認定委員会(NCCAOM)認定鍼灸師。米国サムラ東洋医科大学で修士号取得。鍼、漢方、指圧を組み合わせ、ペインマネジメント、腰痛、頭痛、冷え性、生理痛、肌のトラブルなどの治療や改善に取り組む。

何らかの原因で損傷し、まひした状態だ。男性は鍼(はり)の学校に通う学生で、ほかの治療を一切受けずに来院した。

「顔面神経まひは原因を突き止めるのが難しく、分からない場合がほとんどです」と金子先生は話す。西洋医学では、大半のケースはウイルスや細菌感染が原因とみて、抗ウイルス剤や抗生物質で治療し、炎症を抑えるステロイド剤を処方することが多い。それに対して東洋医学では、「邪気(体に悪影響を与える因子。病原)のうち、『風』と『寒』の2つが体に侵入し、体のバランスが崩れる結果、まひ症状が起こる」と考える。

治療

この男性は、まひが始まる直前に旅先で暴飲暴食し、吐き気や下痢を起こして体力が低下したことが、発症のきっかけと考えられた。

先生によると、人間の体には「気(エネルギー)」、ま

顔、手のひら、そして足の先のツボを鍼で刺激した。

末端神経に働き掛け、「崩れたバランスを整える」という信号を脳に送ることに、弱った自然治癒力の回復を促すという。

この男性は、まひは今回が初めてで、症状も出て間もない急性期だったため一度の鍼治療で、まぶたを閉じたり、ほおを膨らませたりできるようになった。約1週間後には、すべての症状がなくなった。

「治療中は、十分な睡眠が何より大切です。冷房による冷え過ぎや、疲れやストレスの蓄積に注意し、バランスの良い食生活を心掛けてほしい」と先生はアドバイスする。慢性化させると治療に時間がかかり、完全には回復しない可能性もあるため、早期治療を呼び掛けている。(大村智子)

information

日本クリニック
Nihon Medical Group
15 W 44th St., 10th Fl.
(bet. 5th & 6th Aves.)
TEL: 212-575-8910
www.nihonclinic.com